

岐阜大学医学部看護学科教育プログラムに関する 就職先における就業状況調査の結果報告

1. はじめに

本学の卒業生が在学中に身に付けた学力や資質・能力がディプロマ・ポリシーに照らしてどの程度達成されているかを検証し、教育の成果や効果を確認することを目的として、教育プログラムに関する卒業生の実業状況調査を実施した。

本学は、2022 年度に日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ; JABNE）の、分野別認証評価を受審し「適合」との評価を受けており、さらなる教育プログラムの改善に活かすために調査を毎年実施している。新卒で採用され、就職後 1 年目の本学科卒業生の実業状況に関する意見聴取により、看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に活かしていきたい。

2. 基本情報

- 1) 調査期間：令和 7 年（2025 年）11 月～12 月
- 2) 調査対象：新卒で採用され、就職後 1 年目の岐阜大学医学部看護学科卒業生の指導担当者または管理者
- 3) 調査方法：卒業時、学務係が把握している就職先の看護部宛に「就業状況調査のご協力をお願い」を送付し、無記名 Web アンケート形式で回答を得た。
- 4) 回収状況：回収数 36 件、回収率 80.0%

3. 結果

- 1) 看護学科教育プログラムに関する就業状況（次ページ参照）

4. おわりに

本調査は、令和 7 年度の時点で、新卒で採用された就職後 1 年目の本学科卒業生の実業状況に関する意見を聴取した。頂いたご意見を、看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に活かしていきたい。

お忙しい中、多くの質問に丁寧にご回答いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

看護学科教育プログラムに関する就業状況 (単位%) n=36

- 1 看護の対象である人間の尊厳及び人権の意味を理解し、擁護に向けた行動をとろうと心がけていた
- 2 実施する看護について説明し同意を得ることができていた
- 3 人間や健康を総合的にとらえ理解していた
- 4 成長発達に応じた身体的な変化, 認知や感情, 心理社会的変化を理解したうえで, 看護の対象の健康状態をアセスメントしようとした心がけていた
- 5 個人と家族の生活をアセスメントできていた
- 6 地域の特性と健康課題をアセスメントする方法について理解できていた
- 7 グローバリゼーション・国際化の動向における看護の在り方について理解できていた
- 8 看護の対象となる人々と援助的なコミュニケーションを展開し、援助関係を形成できていた
- 9 根拠に基づいた看護を提供する必要性を認識していた
- 10 計画的に看護を展開できていた
- 11 成長発達に応じて、健康レベルをアセスメントできていた
- 12 看護援助技術を適切に実施できていた
- 13 健康の保持増進と疾病を予防する方法について理解できていた
- 14 急激な健康破綻と回復過程にある看護の対象を援助する方法について理解できていた
- 15 慢性疾患及び慢性的な健康問題を有する看護の対象を援助する方法について理解できていた
- 16 終末期にある看護の対象を援助する方法について理解できていた
- 17 感染防止対策、医療事故防止対策について理解し、そのために必要な行動をとることができていた
- 18 慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について理解できていた
- 19 保健医療福祉における看護の機能と看護ケアを改善する取り組みについて理解できていた
- 20 地域ケアの構築と看護機能の充実を図る方法について理解できていた
- 21 安全なケアをチームとして組織的に提供する意義について理解できていた
- 22 保健医療福祉における協働と連携について理解できていた
- 23 社会の動向を踏まえて看護を発展させていくことの重要性について理解できていた
- 24 看護実践において、理論的知識や先行研究の成果を探索し活用できていた
- 25 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理するように心がけていた
- 26 看護専門職としての価値と専門性を発展させようとする姿勢がある

